

補章3 データに基づく職業間移動の検討—職業情報としてのキャリア展開

ある職業に就くための入職経路やその後の移動の道筋を知ることは、自分自身の将来像を描き、段階的な目標を設定し、キャリアを形成するために有用である。しかしながら、これまで職業間移動の実態を明らかにしたデータは、実務者や研究者に向けて示されてきたものの、必ずしも一般向けにわかりやすく示されたものではなかった。職業研究における体系的な調査に基づいて、職業間移動のデータを視覚的に整理した情報が示されるならば、その情報は一般の求職者にとって職業選択を行う際の参考になると思われる。

全国のハローワークでは、職業紹介業務のために共通の職業分類である「厚生労働省編職業分類」（厚生労働省職業安定局，平成23年改定）が用いられている。この職業分類は、大分類、中分類、小分類、細分類の4段階に区分された分類項目によって構成されている。このうち、細分類は職務の類似性、職業紹介業務における求人・求職の取扱件数などを考慮してその上位の小分類を細分化したものであり、その項目ごとに例示職業名が掲載されている（労働政策研究・研修機構，2011）。細分類の項目は職業紹介業務における実務的な利用のために作成されているため、細分類を基準とした職業間移動に関するデータは、職業情報を提供する際に有用であると考えられる。

職業選択の際に前職と関係のある職業が選ばれることは多い。大分類の水準では同一の大分類内での移動が多く、中分類の水準では同一の大分類内での中分類間移動が多いことが報告されている（西澤，2012）。しかし、これまで職業間移動について詳細に検討した研究は少なく、細分類を基準とした職業間移動の傾向を捉えた研究はほとんどない。そこで本稿では、2014年に実施された就業者 Web 職業動向調査（労働政策研究・研修機構，2015）のデータをもとに、細分類項目から九つの職業を挙げ、その職業間移動の傾向について検討する。

1 方法

(1) 就業者 Web 職業動向調査の概要

本稿は、2014年に実施された就業者 Web 職業動向調査のデータを分析の対象とした。調査対象者は27,074名であり、調査会社にインターネットモニターとして登録している就業者であった（学生、専業主婦、無職の者を除く）。この調査は10月16日から23日までに配信され、27日までに回収された。調査項目は、職歴、職業の変化と現状、生活の状況、休日や余暇の過ごし方、回答者の属性などからなる。本稿では、これらのうち現職と前職について回答者が選択した細分類のデータに着目して分析を行った。

(2) 分析対象

本稿では、細分類項目から基準となる職業を九つ（「ソフトウェア開発技術者（汎用機系）」「一般事務員」「スーパーマーケット店員」「娯楽場接客係」「警備員」「自動車整備工」「トラック運転手」「建設・土木作業員」「倉庫作業員」）選択した。この九つの職業は、職業間移動の傾向について広範囲な

比較を行うため、十分な移動人数のサンプルサイズを含む細分類項目の職業について、異なる大分類から一つずつ選定したものであった。選定の基準は、サンプルサイズが、同一の大分類内において相対的に大きく、かつ、各大分類を一般にイメージしやすい職業であるということであった(図表補 3-1)。

図表補 3-1 分析対象とした細分類項目の職業

大分類	細分類 (() 内は職業分類番号)
B 専門的・技術的職業	ソフトウェア開発技術者(汎用機系)(104-03)
C 事務的職業	一般事務員(257-01)
D 販売の職業	スーパーマーケット店員(323-10)
E サービスの職業	娯楽場接客係(406-02)
F 保安の職業	警備員(453-01)
H 生産工程の職業	自動車整備工(603-01)
I 輸送・機械運転の職業	トラック運転手(663-01)
J 建設・採掘の職業	建設・土木作業員(731-01)
K 運搬・清掃・包装等の職業	倉庫作業員(754-00)

注) 本稿で用いた細分類項目の職業分類とそのリストは、『労働政策研究報告書 No. 176』の「2014年調査対象職業一覧」(労働政策研究・研修機構, 2015, pp. 35-53)に基づいている。本稿では、サンプルサイズが小さい細分類項目の職業がそのほとんどを占める「A 管理的職業」と「G 農林漁業の職業」を分析の対象から除外した。「B 専門的・技術的職業」については、「B-1 研究者、技術者」と「B-2 専門的職業」に分類されるうちの「B-1 研究者、技術者」から一つ選択した。

(3) 職業間移動の定義と類型

職業間移動は、「流入」、「流出」、「継続」の三つのパターンによってとらえることができる(西澤, 2012)。「流入」は現職を基準として現在と異なる職業から移動してきたことを指し、「流出」は前職を基準として以前と異なる現在の職業に移動したことを指す。「継続」は前職と現職が同一であることを示す¹⁰¹。

西澤(2012)は、流入と流出のそれぞれについて「同一の大分類内での移動」と「異なる大分類間での移動」の多さの差異による類型を示している(図表補 3-2)。類型1は流入と流出のいずれも同一の大分類内において多いもの、類型2は異なる大分類からの流入が多く、かつ同一の大分類への流出が多いもの、類型3は同一の大分類からの流入が多く、かつ異なる大分類への流出が多いもの、類型4は流入と流出のいずれも異なる大分類間において多いものをそれぞれ示す。例えば、大分類Cの「事

¹⁰¹ 一般に「転職」には、ある会社を辞めて別の会社に就職するといった移動も含まれるが、西澤(2012)および本稿では、職業と職業の間の移動について検討している。すなわち、職業間移動には「会社が変わって仕事が変わった」という場合だけでなく、「会社は同じであるが、担当する仕事が変わった」という場合も含まれる。本稿では、会社や組織、職場間の移動ではなく、「仕事の内容が変わった」という職業の変化に着目した。

務的職業」は、同一の大分類 C からの流入が多く、その一方で異なる大分類への流出が多いということを示している。本稿では、この大分類の水準における職業間移動の類型を、その大分類に含まれる細分類の水準における職業間移動にも当てはまる仮説として設定した。すなわち、西澤（2012）の類型が職業間移動の全体的な傾向として各細分類にも共通するものとした。

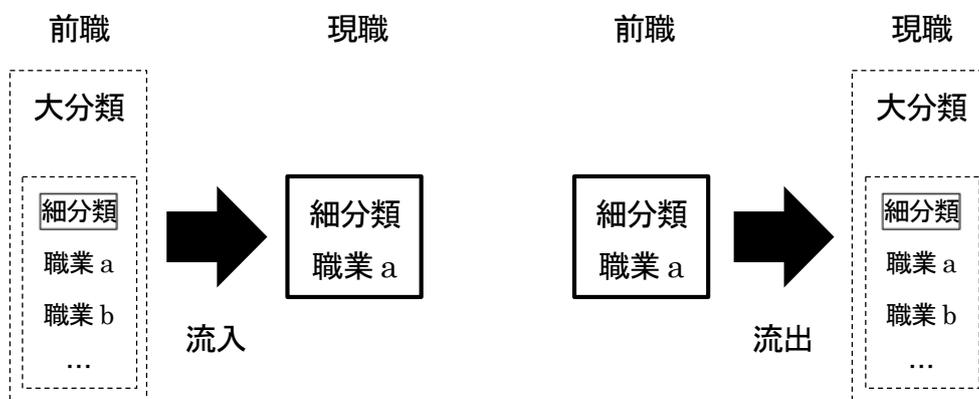
本稿では、分析対象とした九つの細分類項目の職業について、「細分類項目の各職業の移動傾向は、それが属する大分類の水準における職業間移動の類型と一致する」という仮説を検証した。採用した仮説は大分類の水準における職業間移動について説明するものであるが、本稿における職業間移動（流入・流出）はすべて細分類の水準を扱っている。例えば、ある細分類の職業 a が大分類 B に含まれる場合、同一の大分類 B からの移動（への移動）と、異なる大分類 C からの移動（への移動）のいずれも、「流入・流出」として扱う。本稿で検討する職業間移動（流入・流出）のモデルは以下のようなになる（図表補 3-3）。

図表補 3-2 大分類の水準における職業間移動の類型

		流出	
		同一大分類	異なる大分類
流入	同一大分類	類型 1 B, D, H	類型 3 C
	異なる大分類	類型 2 E, I	類型 4 F, G, J, K

注) 西澤 (2012) より転載。

図表補 3-3 本稿における職業間移動の分析の枠組み



注 1) このモデルでは、西澤 (2012) において「継続」(転職後も同じ職業に就いていた者) とされているものについても、同一大分類への「流入」と「流出」のそれぞれに少数含まれるものとして扱う。

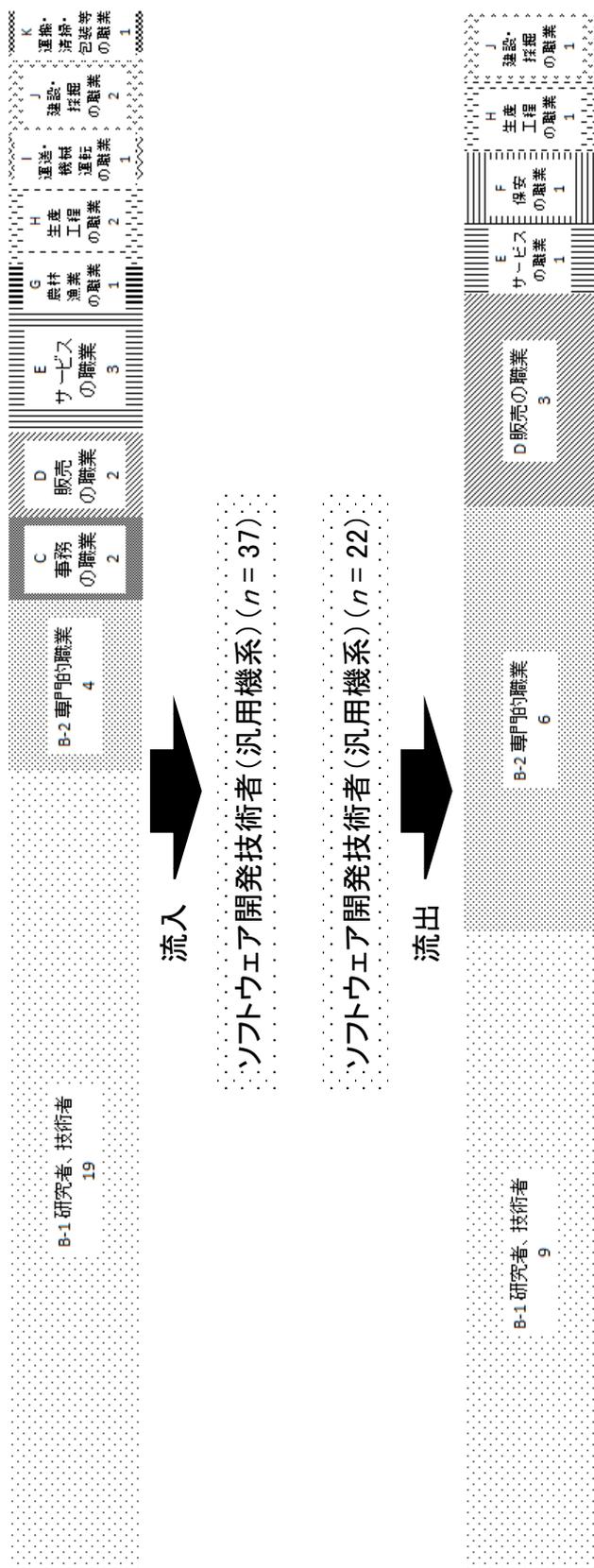
注 2) 流入・流出には、社内異動によって職業が変わった場合も含む。

注 3) 流入・流出の時期については考慮しない。

2 結果

九つの細分類項目の職業（「ソフトウェア開発技術者（汎用機系）」「一般事務員」「スーパーマーケット店員」「娯楽場接客係」「警備員」「自動車整備工」「トラック運転手」「建設・土木作業員」「倉庫作業員」）の流入・流出人数を算出し、図表補 3-4 から図表補 3-12 までに示した。

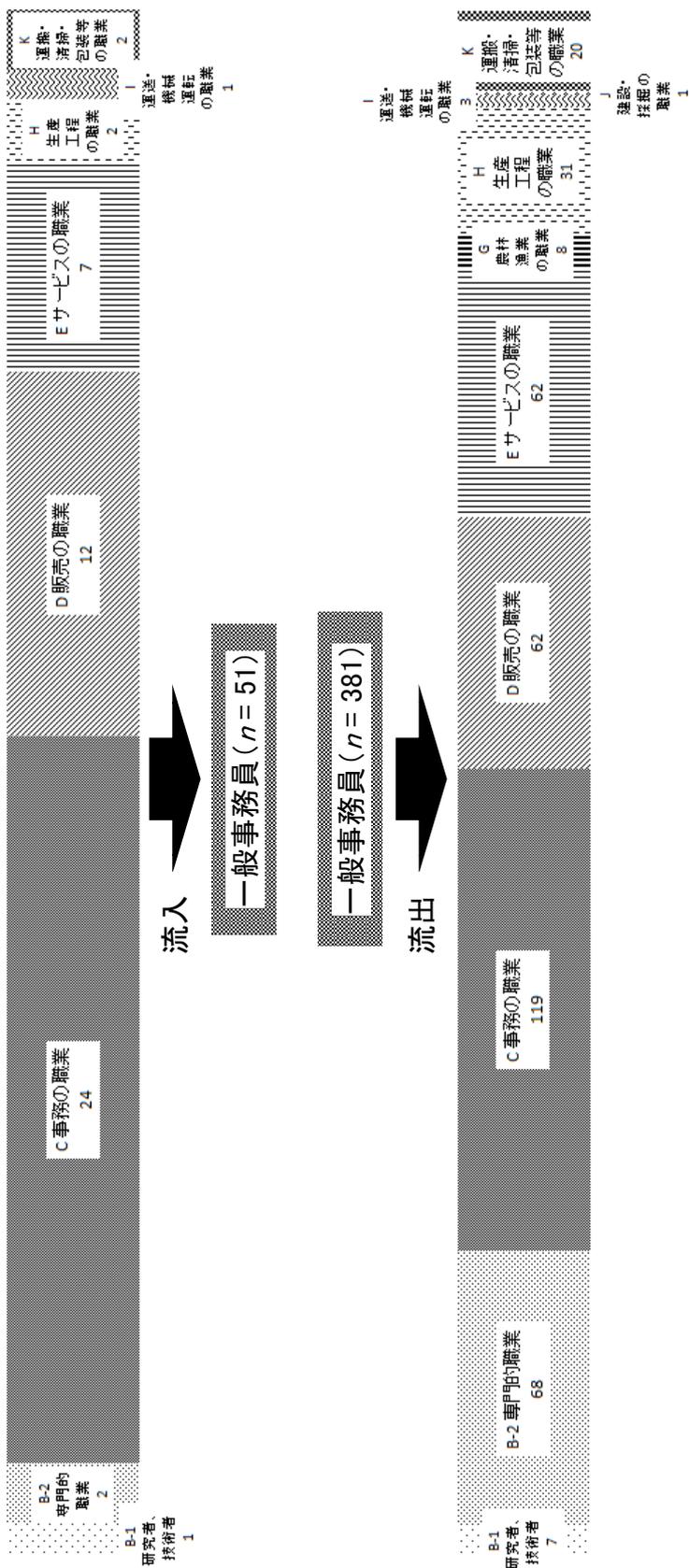
図表補 3-4 職業間移動の状況（ソフトウェア開発技術者（汎用機系））



注 1) 分析を行ったデータは2014年に実施された「職業動向調査（就業者 Web 調査）」（労働政策研究・研修機構, 2015）のものであり、以下、図表補 3-5 から図表補 3-12 まで同様である。

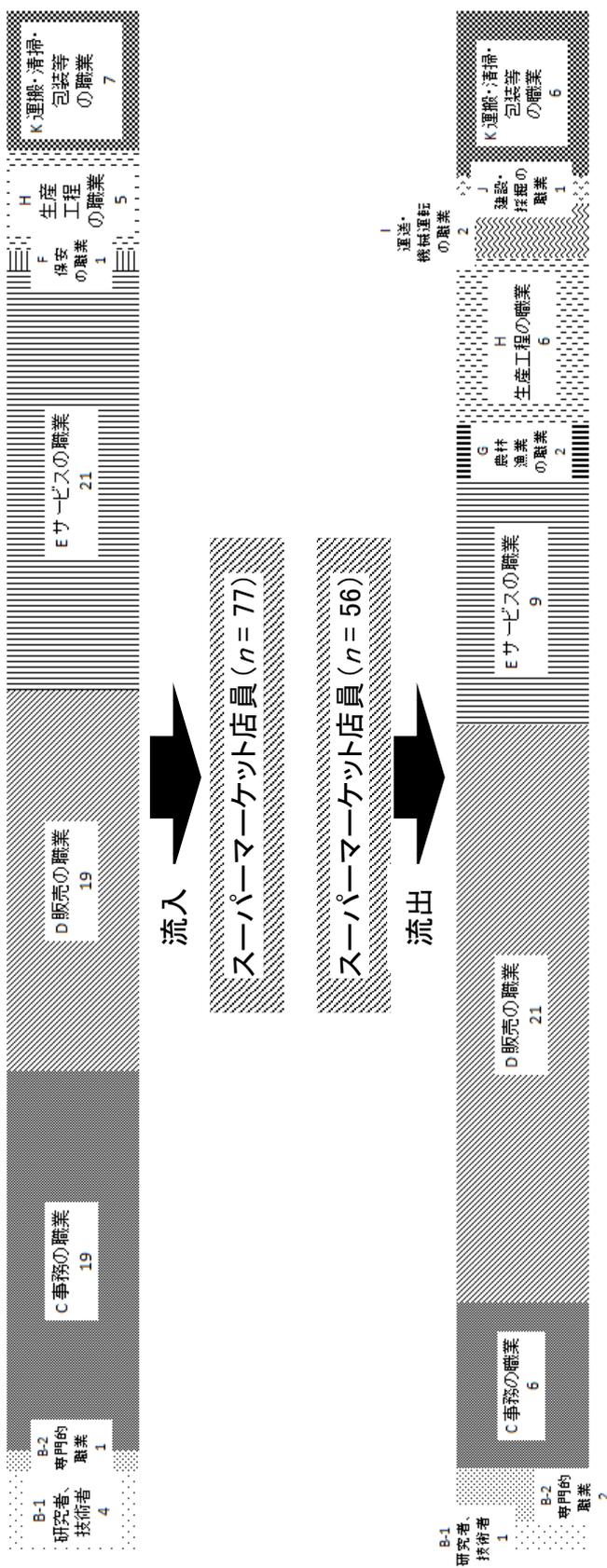
注 2) B-1 に継続が 3 名含まれる。

図表補 3-5 職業間移動の状況（一般事務員）



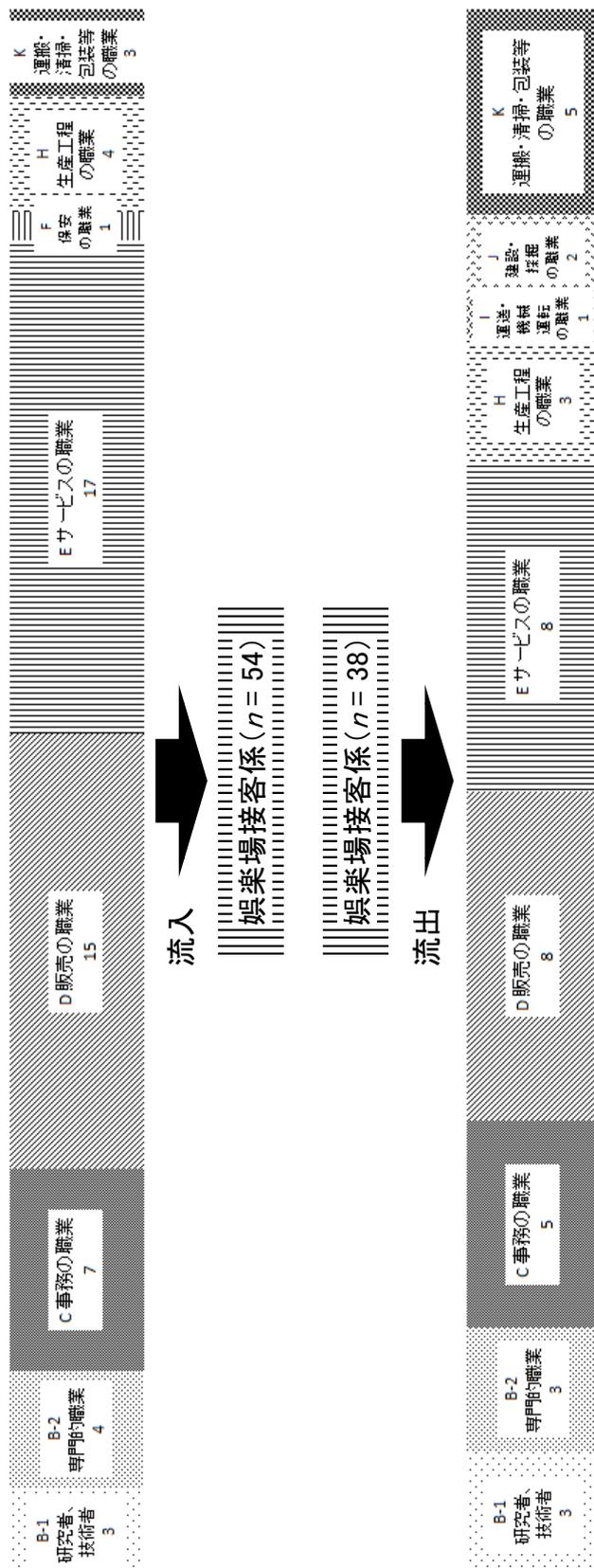
注) C に継続が 4 名含まれる。

図表補 3-6 職業間移動の状況 (スーパーマーケット店員)



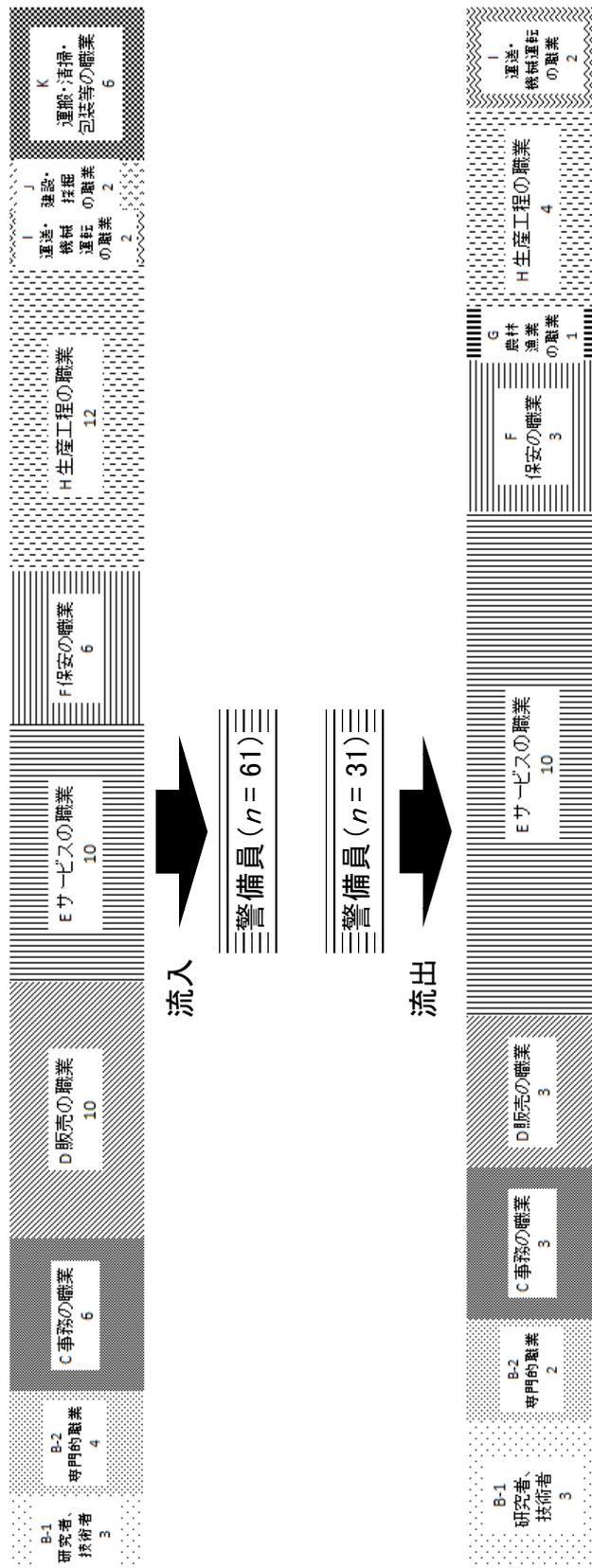
注) D に継続が 2 名含まれる。

図表補 3-7 職業間移動の状況（娯楽場接客係）



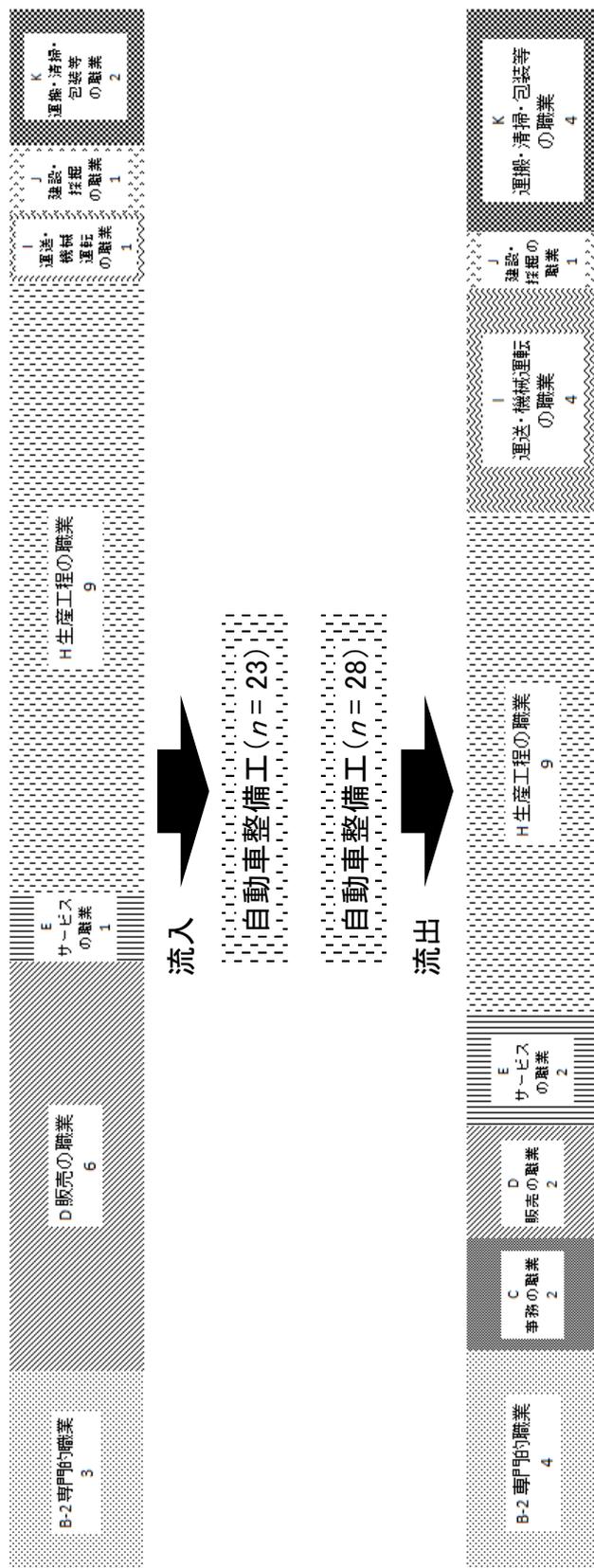
注) E に継続が 1 名含まれる。

図表補 3-8 職業間移動の状況（警備員）



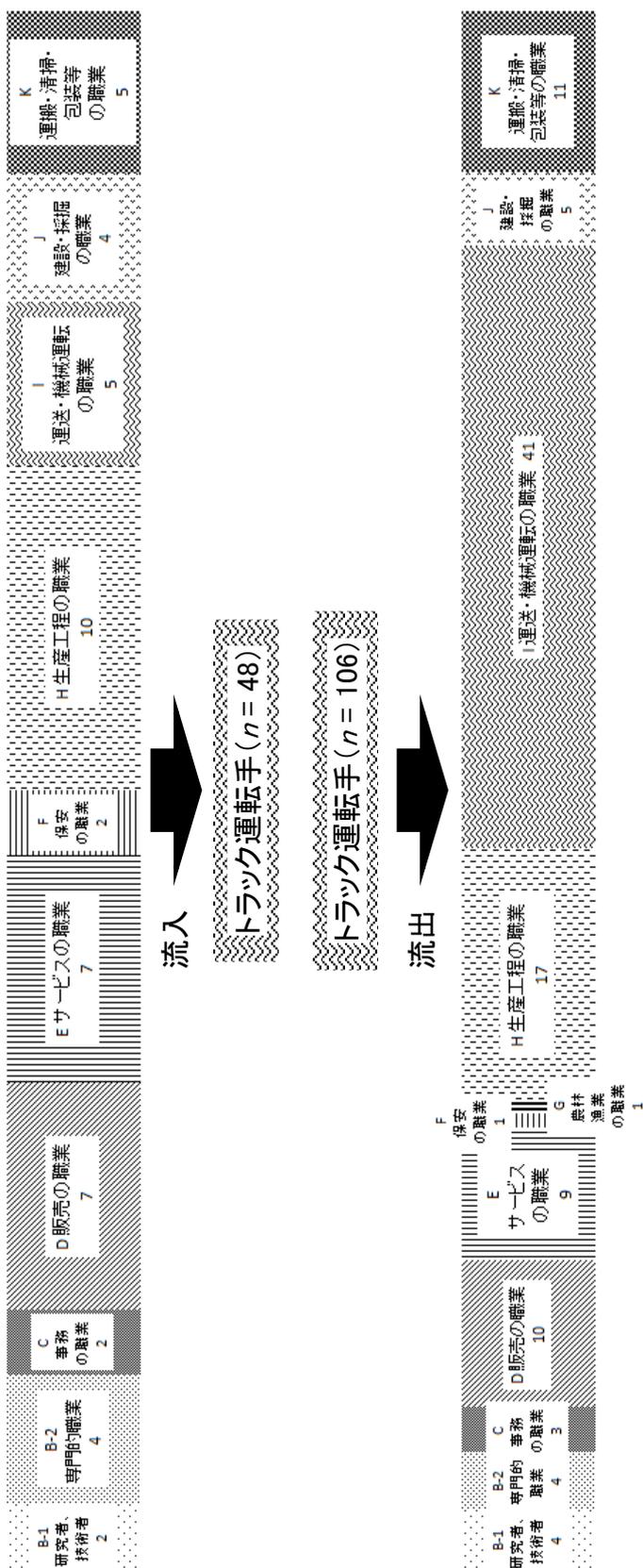
注) F に継続が 3 名含まれる。

図表補 3-9 職業間移動の状況（自動車整備工）



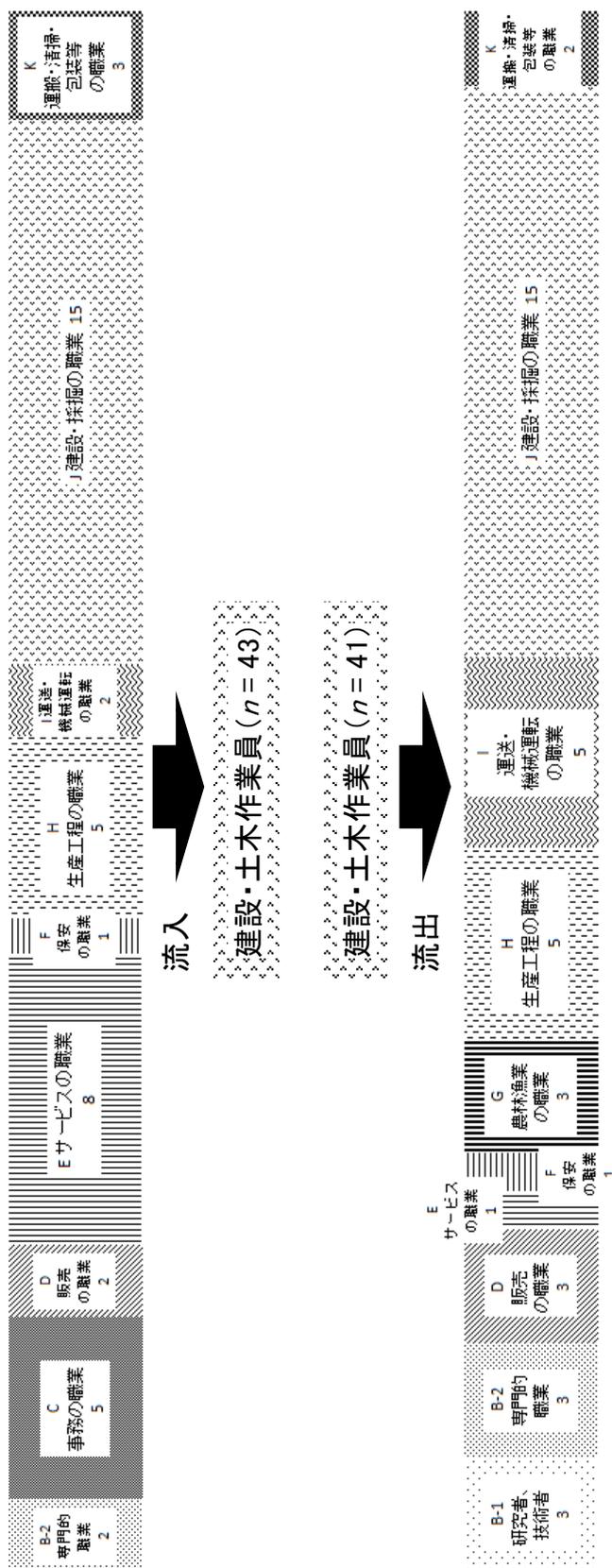
注) Hに継続が2名含まれる。

図表補 3-10 職業間移動の状況（トラック運転手）



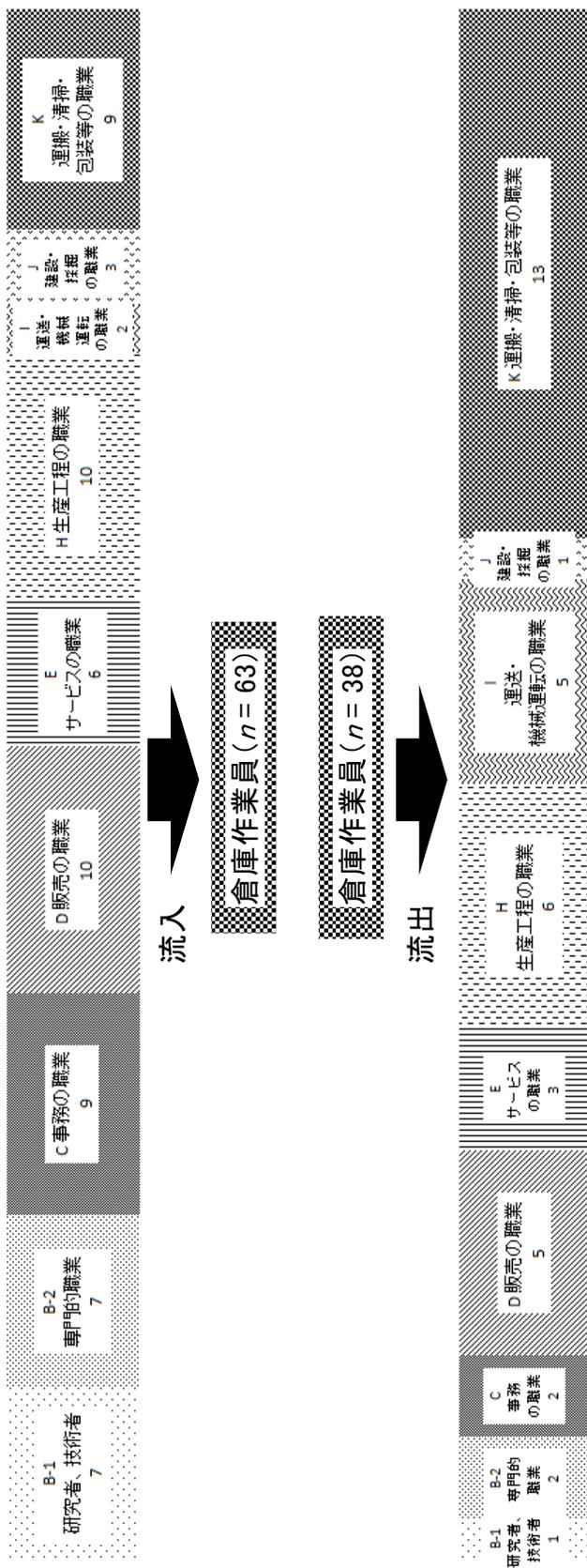
注) I に継続が 2 名含まれる。

図表補 3-11 職業間移動の状況（建設・土木作業員）



注) J に継続が 7 名含まれる。

図表補 3-12 職業間移動の状況（倉庫作業員）



注) Kに継続が4名含まれる。

3 考察

本稿では、「同一の大分類内での移動」と「異なる大分類間での移動」の多さの差異によって四つに分類された職業間移動の類型（図表補 3-2）が、その中に含まれる細分類の水準における職業間移動にもそのまま当てはまるという仮説を設定し、大分類ごとに移動人数のサンプルサイズが大きい細分類項目の職業を抽出し、これらの九つの職業が仮説に当てはまるかどうかということについて検証を行った。流入と流出の双方の傾向が仮説とした職業間移動の類型と一致した場合は、仮説が支持されたものとみなした。一方、流入と流出のいずれかの傾向が仮説とした類型と一致しなかった場合、または流入と流出の双方の傾向が仮説とした類型と一致しなかった場合は、仮説が支持されなかったものとみなした。検証の結果、四つの職業（「ソフトウェア開発技術者（汎用機系）」「警備員」「自動車整備工」「トラック運転手」）については仮説が支持されたが、五つの職業（「一般事務員」「スーパーマーケット店員」「娯楽場接客係」「建設・土木作業員」「倉庫作業員」）については仮説が支持されなかった（図表補 3-13）。

図表補 3-13 職業間移動の類型仮説との比較

細分類項目の職業 （（ ）内は職業分類番号）	類型		仮説との一致	
	仮説 （大分類）	結果 （細分類）	流入	流出
B ソフトウェア開発技術者（汎用機系）（104-03）	1	1	○	○
C 一般事務員（257-01）	3	1	○	×
D スーパーマーケット店員（323-10）	1	2	×	○
E 娯楽場接客係（406-02）	2	3	×	×
F 警備員（453-01）	4	4	○	○
H 自動車整備工（603-01）	1	1	○	○
I トラック運転手（663-01）	2	2	○	○
J 建設・土木作業員（731-01）	4	1	×	×
K 倉庫作業員（754-00）	4	2	○	×

注 1) アルファベットは細分類の各職業が属する大分類項目の符号を示す。

注 2) 本稿の仮説は、西澤（2012）の大分類の水準における職業間移動の類型に従い、この類型が細分類の水準の職業間移動においても共通するものとして設定した。類型仮説の番号は西澤（2012）（図表補 3-2）に準拠している。

注 3) 細分類項目の九つの職業の流入と流出について分析を行い、仮説類型と一致した場合は○、不一致であった場合は×とし、その組み合わせを結果としてまとめた。

大分類 B に属する細分類項目の職業である「ソフトウェア開発技術者（汎用機系）（104-03）」は、同一の大分類 B 内での移動が半数以上を占めている（図表補 3-4）。異なる大分類との職業間移動が少ない理由として、専門的なスキルを必要としていることや、職業選択の際にすでに持っているスキルの活用が考慮されていることを挙げることができる。

「自動車整備工 (603-01)」も同一の大分類 H 内での移動が比較的多い傾向が認められた (図表補 3-9)。「自動車整備工」は専門的な資格が要求され、大分類 H の職業は業務において必要とされる専門的スキルが高い職業がほとんどを占めるため、同一の大分類 H 内での流入と流出が多くなると考えられる。「ソフトウェア開発技術者 (汎用機系)」と「自動車整備工」は、流入と流出のいずれも同一の大分類内において多いことから、これらの職業が類型 1 に当てはまるという仮説は支持された。

「トラック運転手 (663-01)」は同一の大分類 I への流出が顕著である一方で、異なる大分類からの流入が多いという傾向が認められ、「トラック運転手」が類型 2 に当てはまるという仮説は支持された (図表補 3-10)。流出先の細分類項目のうちで最も多かったのが「路線バス運転手 (661-01)」であり、これに次いで「フォークリフト運転作業員 (684-01)」と「タクシー運転手 (662-02)」が多かったことから、「トラック運転手」は次の職業を選択する際に、運転スキルの活用を重視する傾向があると考えられる。流入経路については各大分類でばらつきが見られ、「トラック運転手」が必ずしも特殊な専門的スキルを必要とするとはみなされていない可能性がある。この点については、運転するトラックの種類によって必要な免許が異なることから、入職者が最初に運転したトラックの種類と取得済みの免許の種類の関係性を調べる必要がある。

大分類 F に属する細分類項目の職業である「警備員 (453-01)」は、異なる大分類からの流入と異なる大分類への流出が多く、類型 4 に当てはまるという仮説が支持された (図表補 3-8)。様々な職業からの流入が多いことは、未経験者に対する門戸が広く入職後でも比較的すぐに業務を覚えられることなどに起因すると思われる。また、異なる職業への流出が多いことから、実際に勤めた後に継続を希望されにくい職業である可能性がある。

上述した四つの職業については仮説が支持されたが、以下で述べる五つの職業については仮説が支持されなかった。「一般事務員 (257-01)」は同一の大分類 C からの流入が最も多く、大分類 B、C、D、E への流出が多い傾向が認められたが、同一の大分類 C への流出が最も多いという点が仮説と異なっていた (図表補 3-5)。流出については、大分類 C に次いで B が多く、異なる大分類への流出も比較的多い傾向が認められた。このことは、本稿で分析対象とした九つの細分類項目の職業のうち、前職を「一般事務員」とした人数が最も多かった ($n=381$) ことと、大分類 C に属する細分類項目のうちでも「一般事務員」はその名称が最も包括的であり、その業務内容や必要とされるスキル等も多岐にわたることが原因として考えられ、結果的に職業間移動の範囲も比較的限定されにくくなったと推測される。

「建設・土木作業員 (731-01)」については、同一の大分類 J 内における流入と流出が多い傾向が認められたが、継続の人数が約半数程度含まれていた ($n=7$) (図表補 3-11)。異なる大分類間の移動が多いものの、継続者も比較的多い職業とみなすべきであろう。

「倉庫作業員 (754-00)」は異なる大分類からの流入が多いが、仮説と異なり、同一の大分類 K への流出が多いという傾向が認められた (図表補 3-12)。このことから、「倉庫作業員」を勤めた後に、比較的類似した大分類 K に属する細分類の職業が選ばれることも多いことがわかる。

大分類 D に属する細分類項目の職業である「スーパーマーケット店員 (323-10)」は、異なる大分類 E からの流入が最も多く認められたが、異なる大分類 C と同一の大分類 D からの流入も同程度あったことから、仮説は支持されなかったものの、誤差の範囲とみなすこともできる (図

表補 3-6)。「スーパーマーケット店員」と「倉庫作業員」は、入職時に特定の学歴や資格を必要としないことから、比較的広い範囲からの流入が多いと考えられる。また、「スーパーマーケット店員」に関しては、同一の大分類 D への流出が最も多い傾向が認められたことから、「スーパーマーケット店員」を勤めた後に、比較的類似した大分類 D に属する細分類の職業が選ばれることが多いことが明らかになった。

「娯楽場接客係 (406-02)」は同一の大分類内 E からの流入が最も多く、異なる大分類 D がそれに次いでおり、流出経路についてもややばらつきが見られるものの、大分類 D、E に集中していた (図表補 3-7)。このことから、「娯楽場接客係」は直接的に人と関わるため、勤めた後にその経験やスキルを生かせる販売の職業やサービスの職業が選択されることが多いと考えられる。

本稿では、細分類を基準として九つの職業を挙げ、これらの職業と大分類との間での移動人数を分析することによって、職業間移動の傾向について検討してきた。その結果、「ソフトウェア開発技術者 (汎用機系)」と「自動車整備工」のように、業務において要求される専門的スキルが高い職業は、異なる大分類間での移動人数が少ない傾向があることが明らかになった。職業選択の際にはすでに持っているスキルの活用が考慮され、業務のイメージや現職との類似性が重視されることによって、以上のような傾向が生じると推測される。

本稿では、細分類を基準として個々の項目の職業間移動の傾向を捉えることによって、大分類の水準における職業間移動の類型 (西澤, 2012) との一致を確認した。その一方で、その類型と一致しない職業があるということも示した (図表補 3-13)。また、これまで細分類の水準から職業間移動について検討した研究は少なく、業務に専門的スキルが要求される程度によって細分類項目の職業を新しい視点から捉えることができるという可能性を示した。さらに本稿で用いた方法は簡易であるが、視覚的に整理された情報を提示することが可能であり、職業紹介業務において実証的データを活用する試みを示すことができた。

今後の課題は三つある。第一に、細分類項目のデータを使用したため、本稿で分析対象とした職業にはサンプルサイズが小さいものが含まれるという問題がある。より正確な分析のためには、十分なサンプルサイズを確保し、考察を加える必要があると思われる。第二に、取り上げた細分類項目の職業の代表性の問題がある。大分類 F を例に挙げると、流入と流出のいずれも異なる大分類間において多い類型 4 に含まれる大分類 F の職業として、本稿では「警備員」を挙げたが、大分類 F の他の細分類項目の職業も同じ流入・流出の傾向を示すとは限らない。今後は、同じ大分類の中でも異なる傾向をもつ職業と比較することによって、職業間移動の傾向や各職業の業務内容、必要とされるスキルとの関係を明らかにする必要がある。第三に、流出のデータに制約があるという点である。ある職業 a の各大分類への流出人数は、サンプルとなっている各大分類の構成比やこれに含まれる職業の種別に依存している。したがって、流出人数について大分類別の比率の意味を解釈する際には、単純に一般化することができないデータであることに注意する必要がある。

【参考文献】

- 西澤 弘 (2012).『職務構造に関する研究—職業の数値解析と職業移動からの検討—』労働政策研究報告書 No.146 pp.138–243.
- 労働政策研究・研修機構 (2011).『第4回改訂 厚生労働省編職業分類 職業分類表—改訂の経緯とその内容—』
- 労働政策研究・研修機構 (2015).『職務構造に関する研究Ⅱ—5万人の就業者 Web 職業動向調査より、現状、変化、能力、生活のデータ分析—』労働政策研究報告書 No. 176.

付属資料

資料 1

職業情報提供サイト官民研究会設置要綱

1 趣旨・目的

現在、公正・中立・客観的な職業情報がなく、若年者に対するキャリア形成支援や転職者・離職者に対する職業相談・職業紹介の場面において効果的な支援が困難となっていることから、自らの能力・適性に応じた適切な職業選択を支援する職業情報データベースの構築が急務となっている。こうした中、平成29年3月28日に決定された「働き方改革実行計画」において、「AI等の成長分野も含めた様々な仕事の内容、求められる知識・能力・技術、平均年収といった職業情報のあり方について、関係省庁や民間が連携して調査・検討を行い、資格情報等も含めて総合的に提供するサイト（日本版 O-NET）を創設する」とされたところである。

このサイトの創設に当たって、提供すべき職業情報の種類、内容、情報の収集、提供方法、サイトの運営のあり方等を検討するため、学識経験者、民間事業者、経済団体、労働組合、行政担当者等からなる研究会を設置することとする。

2 検討の方法

検討に当たって職業情報をめぐるニーズ・課題、これまでの職業情報等に関する研究の蓄積、米国 O*NET の現状等を踏まえ、関係者の意見を聞き、職業情報提供サイトの基本構想をまとめる。

3 委員の構成

委員は、以下の分野の関係者によって構成する。

学識経験者
民間事業者
経済団体
労働組合
厚生労働省
経済産業省

4 設置期間

本研究会の設置期間は、平成29年度とし、年5回程度開催する。

5 検討結果のとりまとめ

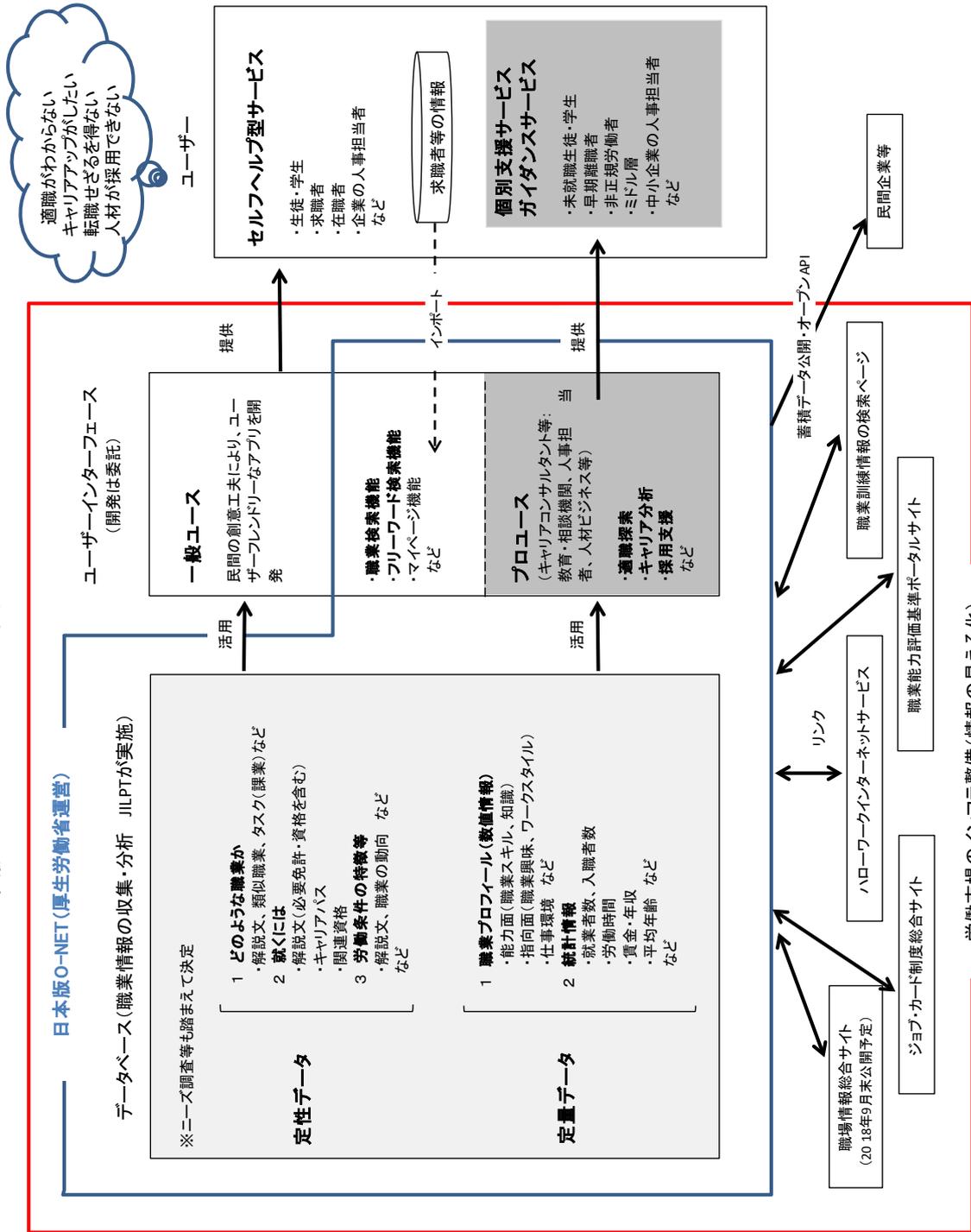
研究会での検討結果は、平成29年度末に労働政策研究・研修機構の研究成果物としてとりまとめる。

6 運営

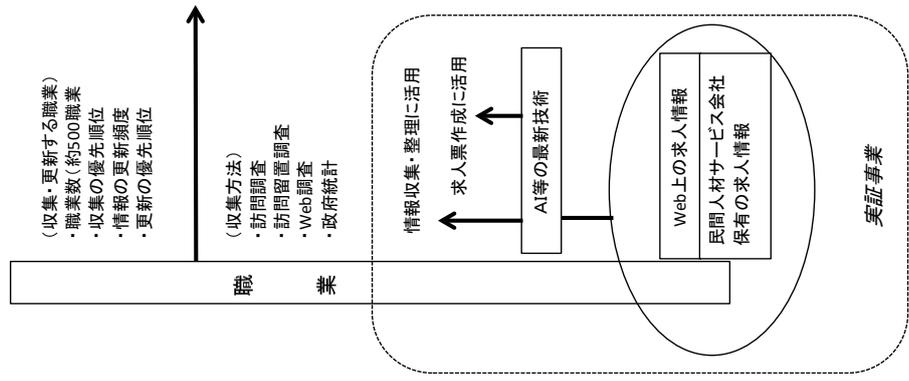
- (1) 事務局は、労働政策研究・研修機構のキャリア支援部門に置く。
- (2) その他、労働政策研究・研修機構の規定により本研究会を運営する。

資料 2

日本版 O-NET のイメージ図



適職がわからない
キャリアアップがしたい
転職せざるを得ない
人材が採用できない



労働市場のインフラ整備(情報の見える化)

キャリアマトリックスと類似職業サイトとの比較（JILPT 調べ）

サイト名		キャリアマトリックス	A	B	C	D	E		
対象	小中学生						✓		
	高校生以上若者	✓	✓	✓	✓	✓			
	一般求職者	✓	✓	✓		✓			
	支援者	✓							
	企業人事担当	✓							
職業数		約500	約480	約470	約220	約450	約510		
職業記述	職業内容	○	○	○	○	△	○		
	就くには	○	図解	○	○	△	投稿個別		
	労働条件	○	図表示あり	○	△	○	×	投稿個別	
統計	就業者数	◎	国等の 統計調査から	◎	×	×	×	◎	
	平均労働時間	◎		◎	×	×	×	×	投稿個別
	平均賃金	◎		◎	△	◎	×	×	◎
	平均年齢	◎		◎	△	×	×	×	×
課業	◎	職業分析と 実態調査から	○	△	△	×	×	×	
興味	◎	統一基準による 実態調査から	○	○	○	×	×	好きから探す	
スキル等	◎		○	○	○	×	×	×	
興味検査	◎	標準化された検査	×	○	○	×	×	×	
特長	利用者別窓口 統計情報 課業リスト 興味、スキルについて調査に基づき、統一基準で 提示 関連情報、労働関連基礎 知識の提供		統計情報 就職や働き方 等に関するコ ラムやインタ ビュー記事	職業に就くた めの学校紹介 動画	働き方やスキ ルアップにつ いての豊富な コラム 高校生向け性 格診断 (40 問)	簡単な記述情 報 リンクで情報 を補う	投稿形式で情 報提供 PC/スマホ別 サイト		
ゲーム性	×	×	×	×	×	×	クイズ等		
ポップアップ広告	×	○	○	×	×	○	○		
リンク	信頼性のある多様なリン ク先			学校情報		学校情報 進学情報	Amazon (関連 する本・DVD)		

(注1) ◎ある（客観的データに基づく）、○：ある、△：少しある、×：ない

ただし、◎には職業によっては統計情報がとれないものも含まれる。

(注2) 2017年6月末現在の公開された情報に基づき、JILPTにおいて評価したもの。

- ・キャリアマトリックスの特長：詳細な職業内容記述、出所を明らかにした統計情報、課業リスト、統一基準での興味・スキル表示、企業・支援者のコンテンツ、体系的な職業分類に基づく。
- ・他のサイトの特長：事例や投稿による分かりやすさと具体性、動画、小中学生への特化など。